

第4回 都庁周辺の空間再編に関する在り方検討委員会

1. 日時・場所

令和5年12月22日（金） 10:00～12:00

都庁第1本庁舎北塔42階特別会議室B +オンライン併用開催

2. 出席者

別紙 出席者名簿のとおり

3. 議題

- ・ 開会
- ・ 議事
 - (1) 都庁周辺の空間再編計画（パブコメ案）
 - (2) 今後の予定
- ・ 閉会

4. 配布資料

次第

[資料1] 前回検討委員会からの整理

[資料2] 都庁周辺の空間再編計画（パブコメ案）（非公表）

[資料3] 都庁周辺の空間別再編計画（案）（一部非公表）

[資料4] 今後の予定（非公表）

5. 議事概要

<議事>

(1) 都庁周辺の空間再編計画（パブコメ案）

（事務局より資料説明（資料1・2・3））

(2) 今後の予定

（事務局より資料説明（資料4））

（岸井会長）

- 本日の委員会での議論を踏まえてパブコメ案を修正し、1月から2月にパブリックコメント（意見募集）を実施した後、結果を踏まえて修正した計画案を次回委員会で確認するスケジュールである。
- 前はデジタルに関する意見が出ていたが、それはどこかに書いているか。

（事務局）

- 資料2：P13-14で課題として記載しており、P18において、全体を通した空間づくりのポイントとして「安全で快適につながる通信環境を整備し、利便性の高い空間に」を挙げている。また、P19の西新宿テラスの欄で、テラス空間として作っていく部分にWi-Fiを整備していく旨を記載している。建物内のWi-Fi環境については、既存の計画の中で順次整備する方向であり、ラボについても今後検討が必要と認識している。

（岸井会長）

- Wi-Fi環境の整備について、あまり明示されていないため、出来る範囲で記載した方が良い。

(坂井委員)

- 資料2：P18は計画の全体像を説明するうえで重要である。「将来像の実現に向けた3つの視点」に「回遊」「発信」「憩い・交流」とあるが、「回遊」については全体を通して記載が不足しているように思う。今回の計画は西新宿のエリアの回遊性を高める最初の起爆剤となり、この取組が周りに波及していくと理解しているので、「回遊」の要素が分かりやすい資料になると良い。
- 資料2：P38 管理・運営の方法に記載されている「イベント会場の場」から「都民が憩える場」への転換は、重要なキーワードであると思う。我々はこれを目指して空間整備や運営を行うという、大きな目標のように捉えていたので、管理・運営のページだけで触れるのはもったいないと感じた。
- 都庁周辺の空間の再編は、西新宿全体のオープンスペースの再編・再構築から、エリア全体の再編を促していく最初の重要な旗揚げの事業であると捉えている。建物の更新には多額の費用がかかることに比べて、公開空地・オープンスペースを少し改変することでイメージを変える取組は、ある意味コストパフォーマンスが良いと思う。そのような取組に周辺の方にも触れていただくことが重要であると思う。
- 資料3：P10~12 都民広場の整備イメージパースを見ると、アーバンロビーとして位置付けられている都議会議事堂の1・2階はフォーカルポイントになると感じた。電気がついていて明るく、人が居れば楽しいが、暗くて誰もいない様子がガラス越しに見えるるとどのような風景になるだろうか。都議会議事堂1・2階の使い方も非常に重要であると思う。
- 4号街路から11号街路下に斜めに入る動線について、斜めに入った先の左側に数段の階段があるが、必要性が分からないので、もう少し整理されると良くなると思う。
- 11号街路下について、木材を使った人間味のある優しい空間を作っていけると良い。都市基盤としてコンクリートで作られている構造体に木材を使うことで、親しみのある空間になっていくと思う。

(岸井会長)

- 全体の回遊性に対する指摘にも関連するが、資料2：P22を見ると、4号街路（西新宿グランドモール）が新宿中央公園に繋がるように描かれており、「横断歩道を検討」と書いている。3号街路や4号街路の歩道の幅も広がるような絵になっているが、周辺の道路の再整備の方向性について具体的に記載されていない。パブコメ案の中に記載できるか。

(事務局)

- 周辺の道路の再整備に関しても平行して議論しているところであるが、都庁周辺の空間再編に関する検討が先行しており、道路については決まり切っていないことが多い状況。現段階では、想定される将来の姿をイメージ図の中で示している。

(岸井会長)

- そのようなコメントがいるのではないか。記載できる範囲で補足が必要。
- 都議会議事堂の屋内空間に関しては、どのように考えているか。

(事務局)

- これまでに、屋外空間を考えるにあたっては屋内空間の使い方も一緒に考えるべきとのご指摘をいただいております。それを受けて、計画の対象を資料2：P4の通り、「都庁舎の敷地内のオープンスペースとそれに面する建物低層部、それらと接続する周辺街路」としている。例えば、都民広場の計画では、面する屋外空間と一体的に利用することを想定している。屋内空間の使い方については管理・運営方法のページで触れているが、屋内の再整備については屋外空間の再整備による使われ方の変化を見ながら、今後検討していく。

(岸井会長)

- 資料2：P20にゾーニングの考え方を記載しており、都議会議事堂・第一本庁舎・第二本庁舎の屋内にもコミュニケーションラボが配置されているが、空間別の計画には書かれていない。また、P38 管理・運営の方法に「都庁舎低層部及び都議会議事堂地下フロア等」と書かれているが、これからの配置の在り方や

マスターリースの管理運営を検討するという表現に留まっている。今後、検討を深めていけると良い。

- 4号街路沿いの縦動線については、現場をしっかりと調査し、設置場所等の検討を深度化していく必要がある。4号街路から11号街路下に入る隅切りや、11号街路（高架）への階段の取り合わせ等は、縦動線（エレベーター等）の設置場所も含めて議論した方が良い。エレベーターを設置できる位置は、現段階で分かっているか。

（事務局）

- 今後、具体的な調査・検証が必要な状況。

（田中里沙委員）

- 坂井委員の意見にもあったが、周遊・回遊という点について全体がどのように繋がっていくのか、例えば、ふれあいモールや階段に座った人が次にどこへ向かうのか等、もう少し詰める必要があると思う。
- 4号街路から広場に入っていきスロープについて、アクセスがしやすくなると同時に、スロープと交差する階段付近が死角となり、子供等がぶつかってしまうことがないか気になった。
- 11号街路下については、自然光の導入を検討するということが、光度や明るさが昼間と夜間でどのようになるのか確認したい。また、ラボと憩いのスペースが点在する中で、このストリートがどのように生きてくるかという点は、もう少し検討が必要かと思う。
- デジタル化において、Wi-Fiは必須として、都庁周辺を訪れる人との、利用前・中・後におけるデジタルコミュニケーションが重要であると思う。来てもらう前には、この場所がこのように変わっているということや、この場所ですること等の情報を発信し、共有しておく必要がある。また、デジタルサイネージやエンターテインメント性といった、楽しい驚きに触れる機会を、イベント時以外にも体験できる仕掛けができると良い。西新宿地区においては、自動運転や新しい交通手段のことが良く話題にされているので、ビークルの中でのデジタル体験やAIのアナウンスなども行いながら、皆さんが使ってくれるようにデジタル情報で誘導していくこと等が期待される。
- Tokyoite Hubについては、素敵なワードであると思う一方で、このままでは読みづらいので、ふりがなをふる等、もう少し工夫が必要だと思う。
- 平日・休日や昼間・夜間あるいは四季におけるオン・オフの切り替えをするのか、都庁関係者の対応や関わり方がどうなるのか、地元の方々等との連携方針等も気になるところである。そのようなアイデアがパブリックコメントの中で得られると、パブリックコメントのあり方も新しく出来、完成以降の成長に繋がるような道筋も準備できるのではないかと思う。

（岸井会長）

- デジタルに関してあまり明示されていない。管理・運営の方法について、色々な人が参加したり、情報発信したりするような双方向の展開ができないかという意見もあった。西新宿は最先端な場所と謳っているため、管理上も含めて、もう少しデジタルに関することを書いても良いと思う。

（泉山委員）

- 資料2：P10に丹下先生の考え方を整理しているが、どの部分を継承していくのかが分かると良い。建築系の方も非常に興味を持つところであると思うので、丁寧な対応が必要。例えば、「シンボル性を高める中心軸」と書いているが、再編計画では、「都庁のシンボル軸・景観軸」という表現に変わっているため、継承していく部分は元の表現と揃える等、リスペクトを示せると良い。
- P12の都民広場の芝生化については、「コラム」というと他の事例のように聞こえるので、「実験報告」等の表現にしたほうが良い。
- P18の「空間再編のポイント」について、将来像や3つの視点との関係が分かりにくい。分かりやすく整理するために、ナンバリングすると良いのではないか。また、再編計画のどこに反映されているのか、対応関係が分かりにくいと感じる。
- 全体的に情報量が多いため、今回の計画で何をやるのかということを一ページで分かりやすくまと

められると良い。将来像・3つの視点・空間再編のポイントと、具体的な手法がどのような対応関係にあるのかという整理が大事だと思う。

- P20-22 の動線やゾーニングについて、本文を読まないと内容が分からないような構図になっているので、考え方を一言で示す見出しを記載すると良いと思う。
- P25-26 のライフスタイルイメージについて、分かりやすい一方で、使い方を限定しているようにも見える。例えば、平日の広場は外国人観光客が夜に使うという表現をしているが、それだけに限定している印象も受けたため、多様な使い方があるということを示せると良い。P11 に西新宿地区の様々なアクティビティを示している図があるが、都民広場にどのような人がいて、どのようなアクティビティがあるかをアクティビティマップのようなものでまとめる方法もあると思う。
- 現況・課題や基本計画で記載している内容が、整備イメージの方では見えにくい印象を持った。対応関係が分かりやすくなると良いと思う。
- P32 のサンクンプラザについて、飲食店とテラスを一体的に利用するとしているが、イメージ図では一体的に見えない。壁を少し塗ると印象が変わるのではないか。
- P36 の11号街路下について、段階的に整備することは非常に良いが、そのステップがP41 実施スケジュールの中でどのような時間軸にあるのか、大体のスケジュールを明示できると良い。また、本計画は短期の概ね3年間の計画とその先の在り方を示すとあるが、どこが概ね3年間の計画で、どこが今後の在り方を示したものか、分かりやすく示せると良い。
- P38 の管理・運営の方法について、公的な不動産は周辺のエリア価値を上げていく、民間投資を引き込む、市民のQOLを向上させるといった役割があるので、現状維持ということではなく、周辺のバリューアップも含めた管理を目指すということ宣言しても良いと感じる。また、「空間再編の方向性」の内容は、都民広場の使い方の方向性かと思うが、P15「都庁に求められる役割」との対応関係が気になる。管理・運営の方法と全体計画の対応関係が整理されると良い。

(岸井会長)

- P41 の実施スケジュールについて、概ね3年間の短期計画として定めるのは4号街路沿いと都民広場で、ふれあいモールや11号街路下はもう少し先という理解で良いか。また、次年度以降も委員会を開催し、継続的に議論していく想定か。

(事務局)

- 短期計画として定めるのは、4号街路沿いと都民広場。ふれあいモールや11号街路下、縦動線などは、今後調整が必要なことが多く、例えば11号街路下は様々な局が関係する。庁内での検討体制の構築も含めて、次年度以降で行っていきたいと考えている。
- P18 の3つの視点と空間再編のポイントについては、対応関係が重層的に絡み合っているため、あえて紐づけず、お互いが影響しているという見せ方をしている。

(田中友章副会長)

- P38 に記載されている「単発のイベント会場の場から、日々都民が憩える場への転換」や、回遊性については重要なことなので、P17 将来像のページにもう少し書いても良いのではないかと。将来像の1行目に、「都民が集い、参加し、思い思いの時間を過ごすことができる」と記載されているが、その下の文章にあまり記載されていない。今まで特別な機会を過ごす場所だったところから日常的な時間の場所に転換していくことや、低層部全体が多義的な空間が連続的に繋がり、回遊性を持った場所が変わっていくということをもう少し丁寧に記載した方が良いと思う。
- P18 に3つの視点や空間再編のポイントが併記されているが、P17 の都庁が目指すべき将来像を、どのような方針や方法で実現していくのかを明確に書いた方が良い。1つ目には、丹下先生の計画にある、シンボル性や軸性など、明確な計画原理として都庁のキャラクターになっているところは継承しつつ、2つ目には、現在都庁を訪れている人のメインのアクセスルートになっている4号街路の玄関性や、来訪者

の受け止め方を抜本的に改善していくということがある。3つ目は、今まであまり使われていなかったところを中心に、新しいタイプの空間に転換していくことであり、具体的には、11号街路下やサンクンプラザ、ふれあいモールが挙げられる。このような構造を明確に示した上で、具体的な空間再編のポイントを整理した方がうまく伝わると思う。

- サンクンプラザについては、噴水が植栽に変わるなど大きな変化が期待できるが、P23・24の全体計画では触れられておらず、その後、空間別の計画で唐突に現れる。現状あまり使われておらず課題がある場所であり、ややブラインドサイドで丹下先生の計画とも干渉しないため、サンクンプラザに手を入れるということは明確に書いた方がよい。また、サンクンプラザに面する店舗がテラスに対して顔出しをするのか、滞在する人が快適に感じるような仕上げをするのか、可能であれば、現状のテナントと話して検討できるとよい。また、上からも下からもよく見える吹き抜けのエッジの部分は、手を入れた方がよいと思う。全面的に手を加えると費用がかかるということであれば、アクセントで温かみのある素材を使用する等、短期で整備する場所なので、少し密度を上げて整備できると効果的であると思う。
- 4号街路沿いについて、メインアプローチであるスロープの部分は良くなってきたと思う。4号街路から11号街路下に入る隅切り部分の幅員と、4号街路から都民広場の方へ入っていくスロープの幅員のバランスは、設計段階でも良いので、人々をどちらに誘導していきたいかを踏まえて適切なバランスに調整できるとよい。また、4号街路沿いのスロープについて、真っ直ぐな計画としているが、機能的に真っ直ぐ行けるよりは、少しずつシークエンスをたどりながら奥に入っていけると楽しい空間になる。踊り場の所でカスケード状に入っていく等、細かなデザインもできるとよいと思う。
- ふれあいモールについて、P33の基本計画には新生活創造ラボの記載があるが、P34の整備イメージには記載がない。ラボはあったほうが良いと思うが、11号街路下のように四角いラボをそのまま配置すれば良いというわけではなく、全体のトータリティを崩さないようにラボを配置しなければならない。11号街路下のデザインをそのまま投影するのではなく、ふれあいモールにおけるラボの置き方を周りの色々なエレメントと組み合わせて考える必要がある。今後、具体的な設計を行う際に検討できるとよい。

(岸井会長)

- 都庁周辺の空間再編をどのようなコンセプト・哲学で行うのかということについて、もう少し整理が必要であると思う。Tokyoiteというキャッチフレーズよりも、どのような考え方で再編しようとしているかという中身をしっかりと書くべきではないか。キャッチフレーズが必要かどうか、Tokyoiteが馴染みのある言葉かも含めて、よく考えたほうがよい。
- サンクンプラザの整備は短期に行うのか。

(事務局)

- サンクンプラザの整備は短期計画に含めており、来年度、設計を進める予定。

(岸井会長)

- ふれあいモールには、現在は関根伸夫氏の彫刻があり、軸線を通すように配置されている。今回の計画はシンメトリーを崩しているが、崩すことの是非について意見をいただきたい。資料3:P17を見ると、第一本庁舎はシンメトリーになっているが、第二本庁舎は、11号街路の柱の位置が多少違っており、シンメトリーは崩れている。その間に位置するふれあいモールはどうすべきだろうか。

(田中友章副会長)

- 今回の計画のような崩し方であればそれほど気にならない。対立的にシンメトリーを崩しているというよりは、弱い造形、或いは凹型に囲い込んだニッチスペースのようなものを配置してシンメトリーを崩しているため、このようなやり方であればうまくいくのではないかと。そういう意味では、ふれあいモール上のラボは、ラボの形自体がこの空間をうまく受け止めて流すような変わった形であっても、それによって誘われる動線空間がきちんとできれば、うまくいくのではないかとと思う。

(岸井会長)

- 関根伸夫氏の彫刻はシンメトリーであるが、後の4つの彫刻は同じ形をしていない。そういう意味では、ラボは軸線上に配置するのではなく、彫刻の周りにこそ、異なる雰囲気のもの配置されてもおかしくないと思う。

(新宿副都心エリア環境改善委員会 技術担当理事)

- 実施スケジュールで示された2026年度、2030年度は西新宿にとって大きな節目になると思う。今回示された2026年度までの計画に、4号街路との関係性、4号街路そのものの利活用、都庁舎低層部の再編まで書かれているが、NSビルなどの隣接する街区との連携については2030年度までの計画として考えていくということが良いか。また、ここに記載されていない3号街路沿道など「その先の在り方」について、何が対象となるのか本計画で明記できると良い。
- 環境改善委員会の取組では、回遊性・滞在性・防災性の実現を重要な柱としている。新宿住友ビルのアトリウム改修の際は、都市計画提案の中で2,850人の帰宅困難者収容を地域貢献として謳っている。都庁舎再編における防災の考え方について、本計画の中に記載した方が良いのではないか。
- 4号街路沿いの再編計画について、現況高低差が1.8mある中、今回高低差バリアーを改善する空間に変わるということを具体的な高低差の数字を資料上で表現してもらえると、都民の方にも分かりやすいと思う。
- 都民広場の芝生化について、このチャレンジを計測・評価し、今後の西新宿地区全体の計画・使い方に活かしていくというストーリーが描けると良い。

(岸井会長)

- 4号街路や隣接街区の再編については、西新宿地区全体の検討の中で確認していく必要がある。

(事務局)

- 防災の考え方について、例えば都民広場については、都庁舎の防災計画上、都民広場に出ることで避難が完了する計画となっていることから、全面的に屋根をかけるような計画とはしていない。現在の防災機能を維持することを前提として、今回の再編計画を考えている。

(国土交通省 都市局 都市計画課 都市計画調査室長)

- ふれあいモールに人がいるイメージを持ちづらいのは、人が回遊する動線から外れていることが一つの要因だと思われ、全体の回遊性の問題と一緒に解けると良いと思う。11号街路の再編と併せて、ふれあいモールの在り方も考えていくことが重要である。
- 11号街路下の第二本庁舎側はNSビルが壁になっており、暗い空間になっている。第二本庁舎とNSビルの関係や、都民広場と11号街路との視線の関係も含めて改善できると良い。

(新宿区 みどり土木部長 (代理))

- キャッチフレーズについて、「Tokyoite PLAZA」から「Tokyoite Hub」とした理由を説明して欲しい。

(岸井会長)

- 「Tokyoite Hub」というキャッチフレーズで良いか、あるいはキャッチフレーズが必要か、議論が必要。

(事務局)

- 今まで憩える場でなかったところが、日常から人々が集まり、賑わいや交流が生まれる空間に変わり、その活動を世界に発信していくべきという議論を踏まえ、発信拠点としてのHubという言葉を用いている。一方で、Tokyoiteという言葉に馴染みがなく、聞き慣れないという意見をいただいております。事務局としては、「都民が集い、参加し、思い思いの時間を過ごすことができる、東京のパブリックを世界に発信する新たなシティホール」という将来像をしっかりと伝えていくことが大事であると考えている。

(岸井会長)

- キャッチフレーズはあまり大きく打ち出さなくても良いのではないかとと思う。

(財務局 庁舎運営担当部長)

- P38の管理・運営の方法について、都民広場は利用日数が増えているものの、イベントの開催は全体的に

少ないという課題がある中で、イベントの場から憩える場に大きく転換していこうと考えており、そのために芝生・ベンチ等の設置は必要と考えている。また、土日を中心にマルシェやヘブンアーティスト等の小規模なイベントも開催されるようになると良いと考えている。また、現在は都が主催・共催・後援しないと利用できないルールになっているが、使用可能な事業範囲を拡大していくことを目指している。

- Wi-Fi の整備も行っていく必要があると考えている。屋内は整備が進んでいる一方で、屋外については今後、しっかりと調査・検討をしていく必要があると認識している。

(総務局 総務部長 (代理))

- P19「機能更新の誘導イメージ」は、西新宿地区全体で共通するイメージか。都庁は高層部にアクセスする場合、セキュリティゲートを通る必要がある。イメージの高層部に記載されている空間を都庁にも作るということであれば、職員の動線と分けて、直接アクセスできる動線を整備する必要がある。
- 全体的にカタカナが多い印象なので、より分かりやすい言葉で記載できると良い。

(岸井会長)

- 「機能更新の誘導イメージ」は、西新宿地区全体のイメージとして掲載したものである。
- 各委員は、委員会の中で伝えきれなかったことがあれば整理頂き、事務局に伝えてほしい。パブリックコメントに向けた素案の取り纏めは、会長に一任いただきたいと思います。
- 最後に「Tokyoite Hub」の取り扱いについて意見を頂きたい。

(坂井委員)

- これまでに示されてきた「Park」「PLAZA」よりは、「Hub」がしっくりくる。但し、「Hub」は中枢を意味する言葉であり、西新宿地区全体において都庁周辺がどのような位置づけであるかを示すことにもなりうるので議論が必要。

(田中友章副会長)

- 「Hub」は拠点的・中心的なものを指す言葉なので、少し違和感があるのではないかと。今回計画しているのは、丹下先生の良いところは継承しつつも、場所を大きく転換して、複数の多義的な場所が連携して展開するようなイメージの空間に再編していくことだと思うので、「PLAZA」より「PLACE」の方が良いと感じた。

(泉山委員)

- 必ずしも広場だけの話ではないので、「PLACE」という言葉は良いと思うが、Tokyoite が聞きなれない。サブタイトルをつけると、キャッチフレーズの意味が伝わると思う。

(岸井会長)

- 仮にキャッチフレーズを付けるとしても、少しトーンダウンさせて書くようなことかと思う。都民のご意見を聞いてみるのも良い。

以 上